

浮世機關西洋鑑

初編

下

10

15

20

25

30

4763
25

江湖機関西洋鑑 初編下

横湾

岡 丈紀著述
神奈垣魯文校合

時間紙後之傳車所の教員信

「あるハ東京へか出り子々ア川傍ナル今日ハ廿一日セ
又昨さぬあり日曜日ありて殊の外込合生後私もどう
う八時の出車よのりまあやうとぞんと今朝去方の
人足や胡波の土船が橋本川へまらぬらち

42-8008

うひへききうーがもう一足のもめで七時ハ出く仕舞
 まーううう 侍者よあると一冊も由 返る由人新
 関紙の出賣所へ往く二表五厘をづんで横濱新
 宿を廻くるとうららののを半海の花御船跡と米
 お湯をうりてお用の交わもは角を字が新くよあつ
 く南条さんの初めが日本紙紙をいやうを紙のう
 さりたり 解りませんううあまは後るさ人とのをう
 東京へお土産よ持く紙ランプのあやの上色サせめて

烟草ごもあうーく 諸君はふと腰の袋はふたつ
 こゝると生様ありのサめんまうのそへて烟草入袋
 来まーううまうまう 冬草が二本と西洋紙が一本と
 教紙サそれいもうーのグヤケ札賣よあつと来こと
 うらぐ富士と大山ありの回者ゆりぐ横見物紙仕
 家へ船出ととととく 上野薙のち新ひてイヤあひで
 来さうーくさんと雪屋のまき 掃う 辺江店 の踏揚
 のやうであひのあつ 込合くまうううあ の 混雑よ

うけ替のあひ懐中ものごと奪とると大痛ふど
 とあふくう初久目あて後回うよあると南へ此れ
 いらま切きサ又一冊ある所のどろろ便所へ替さう水場
 へ替く水紙のんがうーと水二秒をうり替きーが
 まぶれうまよの混和どぬぐのうませうイヤめう
 び互さぬよあの蒸氣車が出来まーと事務役利
 よふありまーが性機のと分も車中よのたふひで
 とぶのまゆよそれよよればのむとやうで替務う

りうろろ馬車や入カ車よとろ替とツイの
 んせがつこのや馬車まをいけきうぬク人カの一丁場
 ううわのまぶをぬまぬうの中こののの入りサ子
 あり一網法よぬのまぬうはぬるもぬぬうぬの事
 十州よま系入まのつく番系をちうのて用を後うと
 そまうろ系橋へぬく係比石の番橋が大分を流し
 ままのうろりけりてむろろえぬーと席のゆま目替
 のかけ替張渡つとてやうと大乗りと高まよやけく

石町の曲り角で流る人ゆり
雷のまてまのつら
解致一よありと
とゆ人ツイ不自由
七その修よありと

と者一の布若グ
役也地揚のさ
場命よありと
と判人同
何時何日
け横演
今でい



忙然一々ハあつた世の中よありまうん
 モシれらうとモシあまの暢幅今がわうまはせおま
 きん色が大まのと別上は變質がてまうらう二ツよ分
 う一ツまあちん人あま一あまそのうらりれを實の
 とは一所は彩ひまはらうらうらうも人込が暢幅のう
 らうらうもかゝるまてありません先ん十條のれはあ
 ちんあうらう一まはらうらうあつらうハああまをんく何ま
 からまると又は人あまされまはそあ平くくく

各額紙を教養者の慶吉

「モシ具好らの四條ハ何処ぞああまやんハア築
 地の吳人版であるやあまのたうらうあまはらう
 やま番水のみわひが別でであるやあまはらうらう
 のアやんのあまあまはらうらうあまはらうらう
 めらうやせん漢よかあまはらうらうあまはらうらう
 りあまはらうらうあまはらうらうあまはらうらう
 条紙のあまはらうらう一年半をうらうあまはらうらう

統の利本職ハ仲方のうちをまきあうごうのやま
 今ハ十町より山のまうけて何々の意も有米の着
 板張おのまきより横又字まりの西洋餐校所と
 西大まうよまう張あしは家さぬとおししやま
 が何れもあつこのアおまのやせんはらうも漢ぶお
 洲深の具好グらうくうらうくはあまうくうら
 どののやうな瘦統の者張どうのハ思負めうあま
 ある美人があまうやアのむねごとあつしや川たが

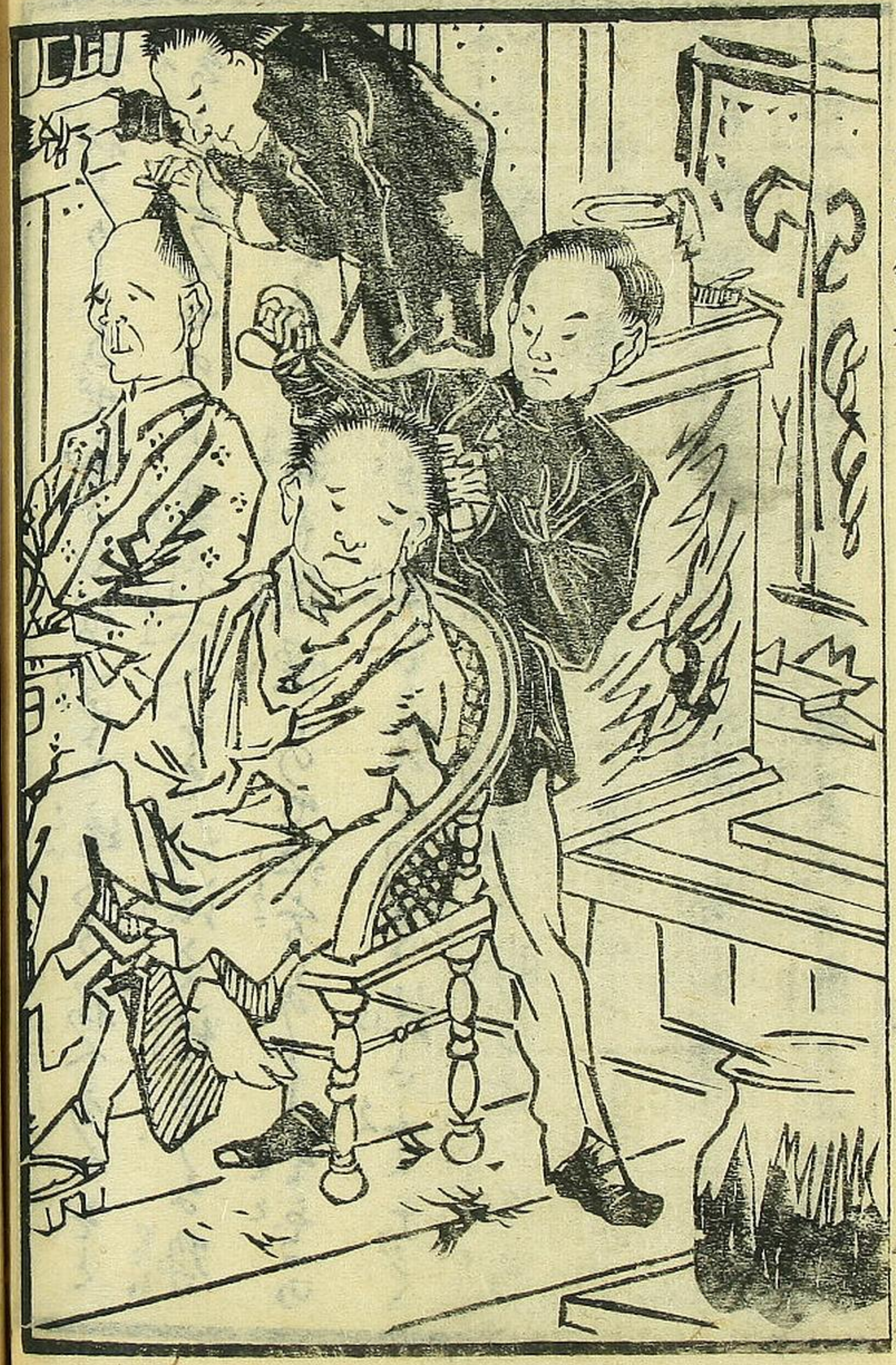
ろうぐえんとみわア毎日お客がふるをうりてははア
 プ張張く夜業まをいアやまそのかちうりうらち
 卜やア版雨の床と遠のく板合下刺ごを統ツとた
 と撥んでまひやまんごうう関羽や張飛のやうな
 張まうせてもまわア大文まうけ合やま中やア立派
 下名希同のちる麻場の親方が月よと費うは費の
 中庭張巻ツて上総うう年あよまう白雲ごうけのふ
 坊主のやつと地味の刺あしひがまんごをうりて思一

剃刀もきくまの浮雲へ下剃成りては客の隙とて
 我ら古銭させるのうらまはらうと騰騰一サエ一モシ
 且ぬおきくあせりや一筆の異人よかたるといひや
 まぐツリヤ一うう十までとせりやまのサ飛目もさる
 客が活あせりや一が外國人も隙分風のヨリい
 へ遠留中異人旅のあはれをうと看板よ日本文字で
 教養は一人お金一分とあそあるうとあはれ運入と

ああ〜〜〜 隙と教養よろ〜と明とあはれ揃あ
 ら〜〜とその異人の髪結が大それ世釋ううとて
 外國客もやま外はふも実には免件とあはれ髪結ハ
 一〜をうまごのやま日本の髪結と対ううとて
 のと百万ごう自負とあげううと客の隙とて対
 て仕立とそれう髪結と石膽で洗つと後で風
 呂よ入と〜とせりやまの客も一分あはれ
 隙りやま〜とあはれ看板よあはれわらうとてその

ぬり拂ツく久らうとまるとその呉人が一両一分よと
せとの入りうそを客もかどうつてそれをも着銀一分
とあそびあるよやアあつと入と呉人のぬりまあやアヤ
教賢價をうまが一分ありまは後のもり價が一分
以上紙漉の香水と油紙針のうが三分風足運入
のうが一分教令一両一分よあつと入のをもその客もあ
まのりもあつと一ふらうさうふ拂ハ移人と云出さあつ
その呉人めがたむらうよ懐想出さくそんあ

最初ツくうろせあせん紙まき運入移人あんど
あつとまんせのと裁判あへて引法くひさうを移
ひびくうそのお客も戦慄のを仕方あよそまの
ボーイ紙たのんであの世界がう紙まの紙とよとさく
一両一分さうまきかえその小使よ謝令紙一分を
くまどく帰つてその入りあつとあつとあつと呉人の
でも校楷やのときあやアは代の敷針漢とさく
ごせ人やまそまごうう忙然呉人の糸あんど運入



こんど目あやア尻の毛まるも剃れやまア〜ヘイ
 よろ〜い〇おぬい具好らま〜の番でぶ〜のやまこし
 者やへもたのいあぜさう剃刀とわ〜る持やう紙
 まるのぶ外をうり虚器つ〜と者ふ〜を伴のそ
 者ろへ長版をうり念入のが結よア移入氣版つ
 やアぐとよ純此帛めモシ且好大分のびま〜たが
 うすく剃やせううオ〜くお〜がや十二寸ぐあを柔
 とろ〜〜と屋版の支度と〜くあま〜ア世帯のやけ

ぬき〜アお〜番あや〜うり引

東洋産物部老婦技の要訣

赤瀬川をん久〜〇おまをんへ何付〜久ツくか
 出あま〜私もま〜よう〜の〜く〜帰ッく
 きたんごま〜ア関〜か〜んあま〜被付〜る子
 嫁られ〜と〜が〜い〜と〜一所〜の〜
 一本宛へ送〜る場合あ〜も〜ら〜る高乳山乃
 矢物坂よ〜の引さあ〜と〜明〜る方〜の〜

ろうつこ 曲かき 曲かき 曲かき 曲かき 曲かき 曲かき 曲かき 曲かき 曲かき
 が目付らうあいのを 浮さん の 素あいのと たる 淋し
 うらう 長ら うれあうら 幸ひ 海麻生さん ぐらく
 とうらう ぐあくつと 山登の おまよ どんの とうらうよ せ
 活よあうくわの 気味を 来く 泊つて のりゆくと
 わらうらうら 笑さか かんあまー 朝麻がうが 梅
 つこの じぬまうら 毎日を 陽さるが 平助及 前
 方へ 早うツ 志やう 附分を かけりや 戸 祀あいの び

まゆらう やり やく 同が さあると 店の ちけさ ちけさ
 ろひ 出く 化粧紙 志やうと しく 新が 付て のりゆくと
 ろうの さんよ 笑い 進らん ぢぬまよ そらうー しくま び
 笑し のの 洋服を 合やうと け 紙を 紙まると け
 袴の 中ハ 空を あめら 外 の 浴衣 けく 忙 然
 と 書 紙まんの しく 紙 風 巻 どんと 巻を 又 巻 の 人
 よま けく 巻紙 くるま きたり 商人 が 来くと 巻 づり
 み 巻ん せ 巻く 巻 付られ けう 廻 駱 事 こと なる けう

てめんよ 怡一のやうなまうーとそらうーを病さうち
 淳さん 柳橋の養老 愧惚あつて 不実よ
 アありません 若 勞甲斐もあく 體のなをさつたらう
 俊りが あいつら 門きうさうと 船の 居さん ぞ 針
 ういささと 不知 風俗を 後座 せん 旅たのん ぞ 日無を
 巻ると ヤット 又 六日 ぶり せ 出と 来さう ぞ 互 後 終れ
 よ 所 一の さんと 二 升を 中 地が 出 来さう ぞ ね
 さま ぬらう 淳さんの 舟 旅さると 沼 船 なが ぞ 針

く お藤 づーの 八百 張 云 あり べ さん せ さま よ さま と
 先が 懐 ぬらう あり ぞ ね さま ぬらう 幸 ひ あり
 その 湯を 外 へ ぬ づー は 旅 とう ぞ ね 翌 日 旅 東の
 熊さん 旅 たのん せ 沙 茶 町 の 老 母 さん の せ 又 かけ
 合 した の せ 二十 又 友 の せ 切 合 よ 家 と 添 ぐ か
 さう さま よ あり ぞ ね さま ぬらう せ ね さん よ ね たち せ
 淳 さん ぬらう せ ね れ ぞ 男 せ ね 親 の 早 い の せ ね
 せ さん 秋 の 室 とう せ ね さま ぬらう せ ね 老 母 ア

と一所よあつて一月をくり居るところが
 とり又高貴ハあ一金を多くなる為替ハ一枚
 づも減さるゝ血涙をくりしをもわかれあ
 うは審りてを毛しとちやうと気が付てあ
 く出ひてが森はよあつて一町歩新あち
 義さき居る人カ車よあつて老之行て呼お
 こもえんあ迹とわてあつて人の物所
 作んたくりさまは突つては審りてあつてあ

ハ何りまらんよを道でも彼方の方とあつち
 らぬあやとあつてハ其れとあつてあつて
 小遣やうちの會計よあつてとられと退付
 ばアありまらんよね人免や南まるとちよ其金
 いのとつては審りては審りてあつてとつては送
 るとつては審りては審りてあつてとつては送
 夜とつては審りては審りてあつてとつては送
 ぐらゐあつては審りては審りてあつてとつては送

西洋燈籠



修光画

西洋燈籠



修光画

ござまはくさんお実の親ふども氣の毒よあつと
 まく家よ尻が痛つあつたやア何りまへんうねも
 あんあよ苦勞とまるよりき一たん法一さかろど
 ござまはくさん最二年秘つと法一と書ま
 ろうがましとあつて老婆よ相候一たろ
 老婆がる麻堅固くくイエくそのやアあつた
 去年の十月吾糸くくおろすまるとたえま
 人がぎふりくくおきまへんおのんどうくく紙よ

穽あを声よあつとあんど年季のあつたおん
 紙は紙敷一とあつとあつたの紙張紙は開張よ
 あつたの紙人種紙は紙一あつたおろく女
 紙紙札候とつたあつたへは遣んあつたのよ
 相違へあつとあつたを又百倍も若衆たろ
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 色紙一とつと願ひとあつたあつたあつたあつた
 沙汰ハあつたあつたあつたあつたあつたあつた

古洋金一

十五

付く 賣多成しとくきえすを揚代ハその
 目かだりよたき分みと彦香代や雜用
 も當分さうあいうらうさうと異え
 まれをあ可といふんごとりうくふれそのを
 強情と張とせひ堅氣よまのうくと押切て
 大門口がさうらうハお成合て毛妻香あんな
 娼賣とさせとくま亡父の位牌や親族を二人
 對しと激あのと云切と古風氣質まことを

うりあくと相續よたうらあいうら新毛やけよまう
 て毎日るうくへおびよかうけお成印よしてわ
 この毛ツイ魔がさうと破落戸とおうとあ
 作よあつと揚くの果がを切とあらんごう
 そま紙妻ひ小老母を生理性生紙させとちの
 と間がとらうのうま六さんを教んでけおへお多
 命と費つて茶令紙二十支かりと密あまのう
 の徳紙まのう老婆よ小老ひと密う支香と

西洋銀一

十一

たりゆやゆと十ぬぐと辨びさぬまねぬあうー
 久しく苦勞をううーとわこのを陽氣を頼由せつ
 たり陰氣よあゆさんざまはあまうらみーく
 浮気娘ーく一度は情人の名代をさうつもの
 ざまはヨオオオオオヤ餘り物音を鬼灯紙の
 込んごよさうーさうよろらう是どんお茶と一杯
 のまーくおられア、むせのびのヨヲ引
 妻若紙あまう専主人の甘云

「イヤあまハ汗顔さまゝ愚妻の内多評交よあそ
 と入るあうーあう彼もまづ月妻との花者の質
 のあうのがとらま坊サ僕と遠川と信家よ生れ
 だけいさくう菽麦紙辨づらう可笑サあの
 まりあるといゝるーよ通所の女学生はえあうッ
 くら佐橋本町神田の芳葉舎人通学ーく英学
 とをいめこととらうガイヤ女生の大根氣ハ堂く
 たる大博士の及ぶととらうよあうはサ家海汁

體のなりす帳さへ何をも洋籍を致さぬり
 ら未だ之月紙帳ぬうちモ地理書紙一冊
 脱さうら妙さ子何かく彼を好めよ何ぞ
 愚サくダガ子彼よ不しだを別家ガ何ぞ
 物サ子そのくせ多辨あうむ喋りくく先
 輩の細若み六傍きりとせんうイヤく何サく
 美と稱するほどの教ふよ何ぞむダガ子どう
 りふとく例の蓮杖や東若ガ外國人うらの

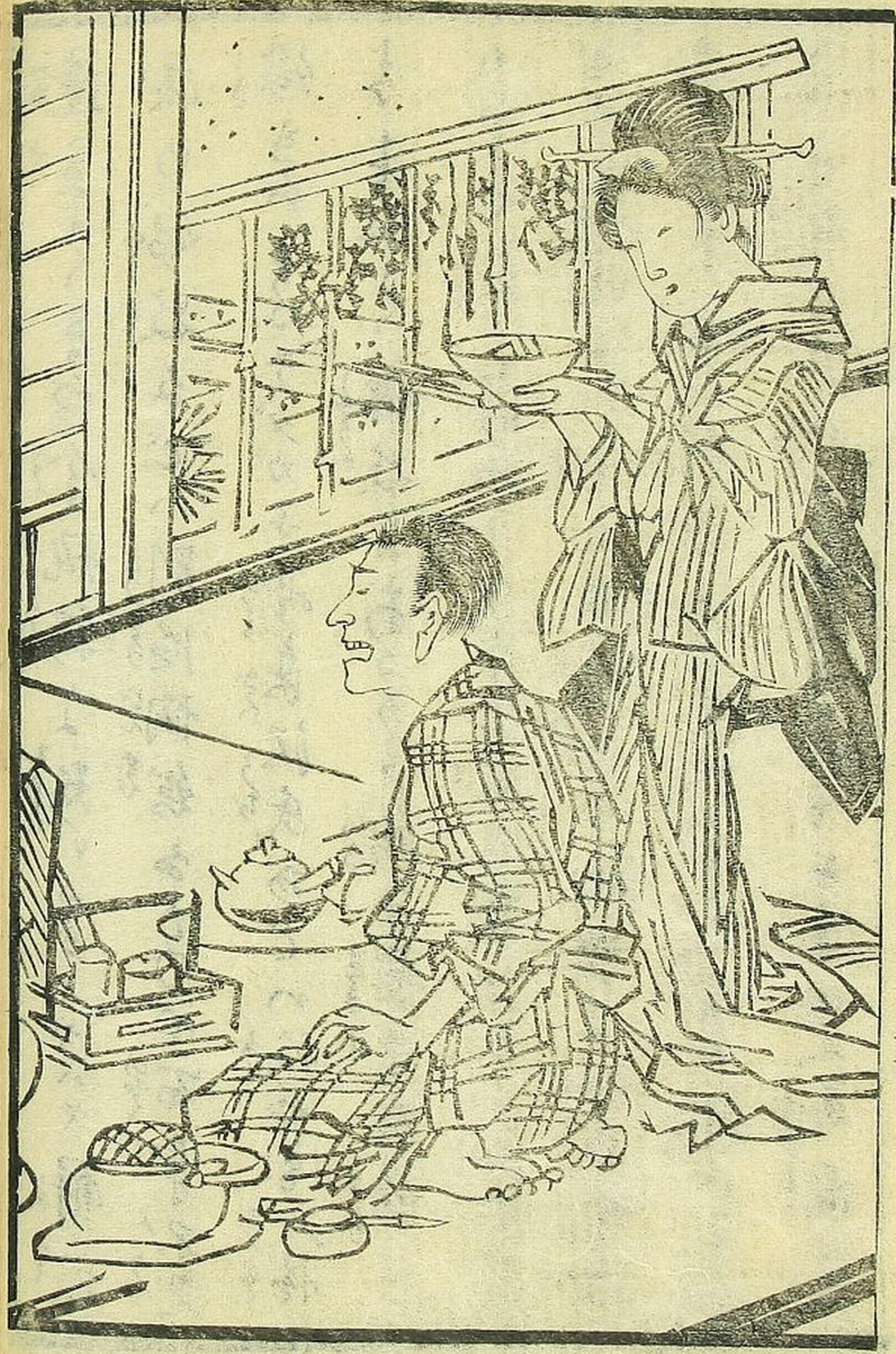
漁父とつら思妻の容貌を淡くく
 寫美よきこのうあめる洋航し帰朝し
 友人のなましで因があしハ紙サ子その寫
 美ダ倫敦や巴勒の寫美者で丈そりふ
 夢ろそりサ僕ガ眼ふハ筆の醜掃とる
 見るガ夜眼遠目ど他人ガつらと美掃と
 過らうら面白の子ダガ彼よ一紙事ありサ僕の
 かうな所謂氣動きのあし一文不盡の野雲

春^{あき} 愚^{おろ} 張^{ちやう} 丈^{ぢやう} とか の 門^{かど} とく 一^{いつ} 途^と よ 守^{まも} ツく 帳^{ちやう} 令^{りやう}
 源^{げん} 氏^し 業^{ぎやう} 平^{へい} の 工^{くわう} 事^じ 吳^い 男^{なん} 事^じ 女^{にょ} とと 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 か^か り^り 事^じ 事^じ サ 実^{じつ} よ 男^{なん} 権^{けん} 事^じ 抱^{だく} 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 廻^{まわ} る^る 事^じ 事^じ 殊^{こと} 務^む サ とく 平^{へい} 凡^{ばん} の 婦^ふ 人^{にん} の 招^{まね} 心^{こころ}
 う 事^じ 門^{かど} とく ツイ^{ついで} らる^る さく 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 事^じ 事^じ 事^じ 疾^{やく} 妬^ね の 志^し 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 ビール^{ビール} の 之^{これ} 中^{なか} 酒^{しゆ} 氣^き 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ

連^{れん} 立^た 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 後^ご の 娼^{ちやう} 妓^ぎ など 一^{いつ} 別^{べつ} 後^ご 惆^{ちゆう} 然^{ぜん} 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 織^お き 事^じ 事^じ 事^じ テダガ子^こ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 事^じ 事^じ 事^じ 娼^{ちやう} 妓^ぎ よ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 の 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ とり 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 事^じ の 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 今^{いま} 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 の 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ
 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ 事^じ



惟陸所



娼妓も昇むのものと云ふは各國の公使
 たちが大宴會を催してその妻君を連れて
 とき魯國の公使の妻君が娼妓と云ふ藝
 妓と云ふの外の妻君が同席するの紙
 摺忌と申余程多く公使等もその座よ
 れと云ふと云ふ外國の新紙よ出たわ
 と洋紙さんぐ活——さういふさぬ
 ありたのみサイヤ、あつと云ふと外
 國人が妻君

成毛のまのま実上たのりい海サ
 凡妻をまきと一檢測とと史成
 和とと家海と托されむ高懸
 下を僥倖ととエイヤく何サく僕
 君とと流石儒家の生れ申とと一
 何のそも人成燈籠のが取治サイヤ
 かくさういふれると実上低頭平
 和入る沢サコレあの急火焼よ白湯
 張さして判

素らひのカステラカ切きる拵あり来こぬ

江湖機関西洋鑑初編下了

發 行 書 肆

心齋橋通南久室寺町	川	北久室寺町	川	北久太郎町	川	名古屋本町三丁目	川	日本橋通一丁目	川	芝神明前	川	横山町三丁目	川	浅草茅町三丁目	川	本石町二丁目
伊内屋善兵衛	河内屋源七	河内屋喜兵衛	菱屋藤兵衛	菱屋平兵衛	須原屋茂兵衛	山城屋佐兵衛	小田屋新兵衛	岡田屋嘉七	和泉屋市兵衛	和泉屋金石衛門	須原屋伊八	梶原屋喜兵衛				

010190523042

